

ブドウ新品種 ‘ サマーブラック ’

誌名	山梨県果樹試験場研究報告 = Bulletin of the Yamanashi Fruit Tree Experiment Station
ISSN	03893588
著者名	小澤,俊治 雨宮,毅 佐藤,俊彦 古屋,次郎 古屋,清 三宅,正則 齊藤,典義 平林,利郎 望月,太 近藤,真理 精進,剛 安藤,隆夫 別所,英男 小池,浩一
発行元	山梨県果樹試験場
巻/号	10号
掲載ページ	p. 1-9
発行年月	2000年3月

ブドウ新品種 ‘サマーブラック’

小澤俊治・雨宮 毅・佐藤俊彦・古屋次郎・古屋 清・三宅正則・齊藤典義・
平林利郎¹・望月 太²・近藤真理・精進 剛・安藤隆夫³・別所英男・小池浩一

¹現 農林水産省果樹試験場カンキツ部

²現 山梨県総合農業試験場

³現 山梨県農政部農業技術課

緒 言

わが国で生産されるブドウのうち、ワイン原料として利用されているのは約1万6千トンである。国産ワイン原料の確保は重要な課題であるが、国産原料の約65%は‘甲州’、‘コンコード’、‘マスカット・ベリーA’などの生食醸造兼用品種で占められている。農家にとって、園地の一部に省力栽培可能な生食醸造兼用品種を導入することは、労力分散や遊休農地の荒廃を防ぐ点から、経営上有利になると考えられる。

このような点から、醸造適性があり、生食にも向く品種の育成が重要と考えられる。近年、ブドウに対する消費者ニーズは多様化しており、品種の育成にあたっては、食味が良いだけでなく、食べやすさの点から無核性が重要な育種目標となっている。

世界的に栽培されている無核品種としては‘トムソン・シードレス’があるが、生食だけでなく、干しぶどうや日常消費用のワイン原料としても利用されている。この品種は二倍体品種であり、偽単為結果によって種子の発育が初期段階で停止し、無核となる。このような偽単為結果性の無核品種を利用して育成された黒色系品種には、‘安芸シードレス’¹⁾、‘Fantasy Seedless’²⁾、‘Simone’³⁾など多数の品種がある。

一方、無核性品種のもう一つの有効な育成手段として、三倍体ブドウを獲得する方法がある。今までに、四倍体品種と二倍体品種の交雑によって‘ハニーシードレス’⁴⁾や‘キングデラ’⁵⁾が育成

されている。

山梨県果樹試験場では、農林水産省の指定試験地として三倍体の生食醸造兼用品種の育成に取り組み、‘サマーブラック’を‘ぶどう農林16号’として登録するに至ったので、その育成経過と特性の概要を報告する。

謝辞 本品種の育成に当たり、系統適応性検定試験を通じ、多大なる御協力を頂いた国及び各県試験場の各位、本報告の取りまとめに御助言いただいた山梨県果樹試験場育種部長櫻井健雄氏、圃場管理等に尽力された歴代職員に心からの感謝の意を表す。

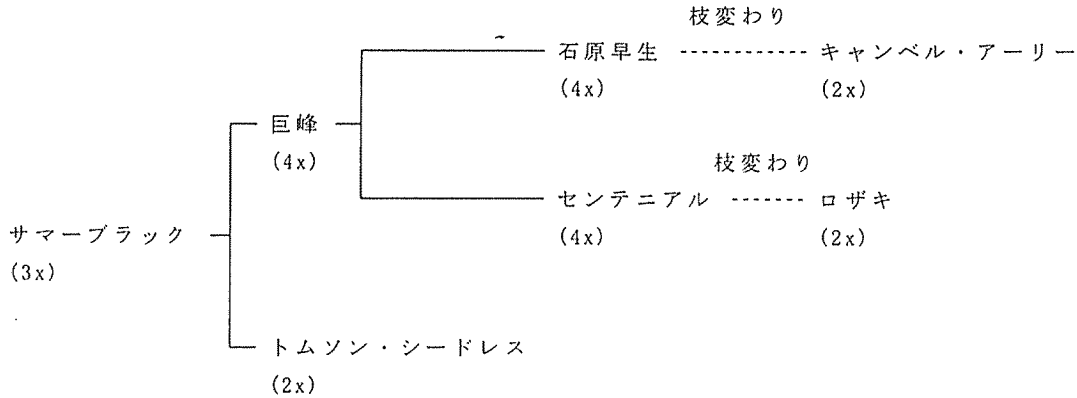
育成経過

山梨県果樹試験場において、1968年に四倍体品種の‘巨峰’に二倍体品種の‘トムソン・シードレス’を交雑し、養成した11個体の実生から選抜した品種である(第1図)。母親の‘巨峰’は紫黒色の大粒品種で、食味が良く、消費者の人气が高い。父親の‘トムソン・シードレス’は世界的に栽培されている黄緑色の無核品種である。1969年に播種し、翌年に個体番号「8255」として万力山圃場に定植した。1990年より果房にジベレリン処理を行った結果、早生種として着色が容易で、食味が良好であったため、1992年から‘山梨35号’の系統名で第8回系統適応性検定試験に供試した。試験場所は岩手県、石川県など22場所である。

1997年1月に開催された平成8年度落葉果樹系

統適応性・特性検定試験成績検討会において特性を検討した結果、早生品種として果実品質が優れており、有望であることが認められ、1997年8月19日に‘サマーブラック’と命名、‘ぶどう農林

16号’として登録された。1997年3月31日に種苗法に基づく品種登録の申請を行い、1999年3月18日に出願公表された。



第1図 ブドウ‘サマーブラック’の系統図

本品種の育成に関与した担当者及び担当期間は次のとおりである。

育成担当者 (担当期間)：雨宮 毅 (1968～1986)、小澤俊治 (1968～1988, 1990～1996)、佐藤俊彦 (1968～1976, 1977～1983)、古屋次郎 (1968～1983)、望月 太 (1977～1978, 1983～1986)、古屋 清 (1983～1993)、平林利郎 (1986～1990)、三宅正則 (1987～1993, 1996～1997)、安藤隆夫 (1988～1990)、齊藤典義 (1990～1996)、精進 剛 (1993～1996)、近藤真理 (1994～1997)、別所英男 (1996～1997)、小池浩一 (1996～1997)

特性の概要

1. 形態的特性

‘サマーブラック’の樹体に関する特性を第1表に、果実に関する特性を第2表に示した。

1) 樹体の特性

樹勢は強く、新梢の伸びは旺盛である。樹冠の拡がり大きく、‘巨峰’よりやや大きい。熟梢は黄褐色で太い。熟梢の綿毛密度は無～極粗であり、節間横断面の形は円である。テレキ5BB台で台負けは中程度である。幼梢先端の色は薄赤で、綿毛の密度はやや密である。成葉の葉身は5角形で、裂片数は5片である (写真2)。葉の大きさは大で‘巨峰’より大きく、‘安芸シードレス’と同程度である。成葉下面の葉脈間の綿毛の密度

は無～粗である。葉縁鋸歯の形は両側直線で、葉身先端部の形は鈍である。葉柄裂刻の一般的な形は開く、上裂刻の形は開く～閉じるで、深さは中位である。葉の上面の色は黄緑～緑、下面の色は黄緑である。葉柄は淡紅色で、短く、太い。花穂は複穂円筒形で長い。1新梢あたり2花穂を着ける。花は完全花 (両性花) であり、花粉の量は中程度である。蕾は大きい。三倍体品種である。

発芽期は育成地で4月下旬で‘巨峰’より遅く、ほぼ‘マスカット・ベリーA’と同時期である。満開期は育成地で6月上旬でほぼ‘巨峰’と同時期である。

うどんこ病、べと病等の病害の発生は少ない。

2) 果実特性

自然状態の果房は有岐円筒形で大きく、果房の長さは中程度である。花振るいは多く、着粒密度は中である。果粒の形は扁円～円で、大きさは無核品種のため3g程度と小さい。満開時及び満開10日後のジベレリン50ppmの2回処理によって、着粒増加と果粒肥大 (7～8g) の効果が見られ、400g前後の果房となる (写真1)。穂梗は太くて極長、淡緑色である。果梗は太く、長さは中程度である。果粒は紫黒色で果粉は多く、散光着色性を有する。はく皮性はやや困難で、肉質は塊状と崩壊性の中間であり、フォクシー香を有する。果汁の糖度は20～21°Brixと高く、酸含量は0.5～

0.6g/100mlで食味は濃厚である。果汁は多く、渋みはほとんど感じられない。果肉は不着色であるが、果皮付近にわずかに着色がみられることがある。果皮は厚く、裂果は少ない。果梗の強さは中程度である。果梗と果粒の分離性は容易であるが、'安芸シードレス'よりは少ない。果実の日持ちは短い。

熟期は山梨以西で8月上中旬で、'巨峰'より5~10日程度早い。温暖な地域では旧盆前の出荷が可能な早生品種である。

3) 対照品種との比較

本品種の対照品種として、ほぼ同時期に成熟する'キングデラ'、母親の'巨峰'、さらに外観が似ている'マスカット・ベリーA'及び'安芸シードレス'をあげた。これら品種と'サマーブラック'の比較は第1表及び第2表に示すとおりである。なお、'サマーブラック'、'安芸シードレス'及び'キングデラ'はジベレリン処理果

の調査結果である。'キングデラ'については果実特性のみの比較を行った。

'安芸シードレス'との比較では、収穫時期が1~2週間程度早く、糖度及び果粒肥大の点で優れる。また、熟梢の色、花穂、果房と果粒の形、肉質、香りが異なる他、成葉上裂刻の深さ、果皮と果肉の分離性、花振るい性も異なる。'巨峰'との比較では、収穫時期が1週間程度早く、糖度は高いが果粒重は劣る。また、熟梢の色、花穂、果房と果粒の形の他、種子がない点で異なる。

'マスカット・ベリーA'と比較すると、収穫時期が1ヶ月程度早く、糖度及び果粒肥大の点で優れる。また、熟梢の色、花穂、果房と果粒の形、肉質、香り、果皮と果肉の分離性と花振るい性の他、種子がない点で異なる。'キングデラ'は同じ無核品種であるが果皮色が異なる。また、'サマーブラック'は糖度、果粒重の点で'キングデラ'より優れる。

第1表 'サマーブラック' と対照品種の樹体特性の比較

品 種 名	樹 勢	樹 の 拡 がり	幼 梢 先 端 の 綿 毛 の 密 度	熟 梢 の 色	熟 梢 の 太 さ	成 葉 の 大 き さ	成 葉 の 裂 片 数	裂 刻 の 形	上 裂 刻 の 形	花 穂 の 形	花 穂 の 着 生 数
サマーブラック	強	大	やや密	黄褐	太	大	5	開く	開~閉	複穂円筒	2
安芸シードレス	弱	小	密	暗褐	太	大	5	閉じる	開~閉	円錐	2
巨峰	強	中	密	暗褐	太	中	3	閉じる	閉じる	複穂円錐	2
マスカット・ベリーA	中	中	密	紫褐	太	中	3~5	重なる	開~閉	複穂円錐	3

第2表 'サマーブラック' と対照品種の果実形質の比較

品 種 名 ^z	取 穫 期	果 房 の 形	果 房 重 (g)	粒 着 密 度	果 粒 の 形	果 粒 重 (g)	果 皮 の 色	果 粉 の 量	果 皮 の 分 離 性	肉 質	糖 度 ('Brix)	酸 度 (g/100ml)	香 り	裂 果 性	脱 粒 性
サマーブラック ^y	8. 8	有岐円筒	411	中	短楕円	7.8	紫黒	多	やや難	中間	20.6	0.51	フokシー	少	易
安芸シードレス ^x	8. 24	円錐~有岐円錐	262	中	短楕円	3.4	紫黒	多	易	塊状	18.1	0.40	無	無	極 易
巨峰	8. 20	有岐円錐	384	中	短楕円	13.4	紫黒	中	中	中間	19.2	0.58	フokシー	無	やや易
マスカット・ベリーA	9. 12	有岐円錐	388	やや密	短楕円	5.3	紫黒	多	易	塊状	19.7	0.52	無	無	易
キングデラ ^y	8. 10	有岐円筒	295	密	短楕円	3.2	赤褐	中	易	塊状	21.4	0.70	無	無	中

z サマーブラックと巨峰は平成7年~9年の3年間の平均。安芸シードレスは平成7年と9年の平均。その他は平成7年の結果。

y GAは満開時及び満開10日後の50ppm処理

x GAは満開時50ppm処理

2. 栽培的特性

系統適応性検定試験における試作結果として、1992年に開始した第8回系統適応性検定試験の1995~1996年の成績を第3表に、また果実品質に

についての7場所における1995~1996年の成績を第4表から第8表にそれぞれ示した。なお、'サマーブラック'及び'デラウエア'の成績についてはジベレリン処理を行った果房での結果である。

‘サマーブラック’の樹勢は鹿児島県を除く全場所でやや強～強と判定された。樹冠面積は場所間で大きな差が認められた。

収穫期は山梨県以西で8月上中旬、北信越及び南東北で8月下旬～9月上旬、北東北及び北海道では9月中旬から10月上旬であった。山梨35号は‘デラウエア’と‘巨峰’の中間に成熟する早生品種と考えられた。着粒密度は20場所のうち16場所で粗から中と判定された。

果房重は104～529 gと場所間で大きな差がみられ、全体の平均は262 gであった。供試樹は樹齢が若いため、花振るいしやすい傾向が認められた。果粒重は4.3～7.6 gの範囲で全体の平均は5.8 gであり、‘デラウエア’と‘巨峰’の中間であった。

糖度は18.2～23.5°Brixの範囲で全体の平均は21.1°Brixであり、‘デラウエア’や‘巨峰’より高かった。酸度は0.35～0.76g/100mlの範囲で全体の平均は0.50g/100mlであり、ほぼ‘巨峰’と同等であった。裂果性は無～極少との評価が多かった。脱粒性は易から中とする評価が多かった。1樹当たりの収量は場所間で大きな違いがみられたが、山梨県の例を参考にすると、10 a 当たり1.5トン程度は可能と考えられる。病害虫の発生については、まれに晩腐病やべと病の発生が認められているが、慣行防除で特に問題となる病害は認められない。また、生理障害の発生は報告されていない。耐寒性は北海道中央農試の観察によれば、‘巨峰’並みの中程度である。

第3表 ‘サマーブラック’の系適試験結果の概要

場所名 [*]	樹勢	樹冠面積 (m ²)	収穫期 (月日)	着粒	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸 (g/100ml)	裂果	脱粒	収量 (kg)
北海道中央農試	強	20.7	10. 3	や粗	308	6.5	18.2	0.66	極少	中	1.2
岩手園試・大迫 [†]	強	57.0	9. 7	中	238	5.6	20.4	0.45	極少	易	19.7
宮城園試	強	31.0	9.19	粗	247	4.3	22.5	0.53	無	易	13.2
秋田果試・天王	や強	45.3	10. 7	密	347	5.7	19.9	0.48	極少	中	25.5
山形園試	強	64.4	9. 9	粗	193	5.8	21.1	0.42	少	や易	21.8
山梨果試	強	249.0	8. 9	中	396	7.6	21.3	0.49	無	や易	91.1
長野果試	強	54.9	8.19	粗	262	6.1	20.8	0.35	少	易	8.6
長野中信農試	強	50.4	8.30	粗	260	6.3	20.6	0.51	極少	や易	14.8
新潟園試	強	55.4	9. 4	中	184	4.8	19.9	0.43	極少	や難	3.9
富山農技セ果試 [*]	や強	—	8.16	粗	106	4.9	21.2	0.60	無	易	0.8
石川農研セ・砂丘	強	19.5	8.25	密	218	6.7	22.6	0.44	少	中	8.1
愛知農総試園研	強	39.1	8.17	中	529	6.0	19.5	0.55	無	や易	10.4
大阪農技セ	強	32.5	8.23	や密	243	5.1	23.5	0.39	少	中	—
奈良果振セ	強	29.7	8. 3	や粗	182	4.3	23.4	0.49	無	や易	4.8
島根農試 [*]	強	23.0	8.12	粗	254	7.4	19.2	0.61	無	易	7.9
岡山農試	や強	12.1	8.13	中	366	7.1	19.9	0.44	少	中	12.4
広島農技セ・果研	強	1.8	8.12	密	291	6.4	21.7	0.76	無	中	1.2
果樹試・姫 [†] トウ	強	77.0	8.15	や粗	270	5.7	21.5	0.53	極少	や易	53.5
香川農試・府中 [*]	強	25.1	8.14	中	260	6.1	23.2	0.43	無	難	1.4
福岡農総試園研 [*]	強	29.1	8. 7	粗	104	5.0	20.8	0.55	無	中	2.5
鹿児島果試・北薩 [*]	中	—	8.26	—	251	5.4	21.3	0.36	無	中	—
平均	—	48.3	8.25	—	262	5.8	21.1	0.50	—	—	15.9

^{*} 一部を除き、1995年と1996年の平均。

[†] 1995年の成績。

^{*} 1996年の成績。

第4表 'サマーブラック' と対照品種の熟期の比較²

場所名	デラウエア	サマーブラック	巨峰
山形園試	8.19	9.9	9.16
山梨果試	8.7	8.9	8.14
長野中信農試	8.29	8.30	9.24
新潟園試	8.19	9.4	9.10
石川農研セ・砂丘地	8.22	8.25	9.13
大阪農技セ	8.10	8.23	8.26
広島農技セ・果研	8.12	8.15	8.29
平均	8.17	8.25	9.6

² 1995年と1996年の平均

第5表 'サマーブラック' と対照品種の果房重(g)の比較²

場所名	デラウエア	サマーブラック	巨峰
山形園試	143	193	336
山梨果試	192	396	371
長野中信農試	187	260	387
新潟園試	111	183	210
石川農研セ・砂丘地	127	218	276
大阪農技セ	110	243	339
広島農技セ・果研	144	291	336
平均	145	255	322

² 1995年と1996年の平均値

第6表 'サマーブラック' と対照品種の果粒重(g)の比較²

場所名	デラウエア	サマーブラック	巨峰
山形園試	1.7	5.8	13.1
山梨果試	1.7	7.6	13.2
長野中信農試	1.9	6.3	12.2
新潟園試	1.7	4.8	9.9
石川農研セ・砂丘地	1.9	6.7	10.9
大阪農技セ	1.1	5.1	10.8
広島農技セ・果研	1.6	6.4	14.4
平均	1.7	6.1	12.1

² 1995年と1996年の平均値

第7表 'サマーブラック' と対照品種の糖度(°Brix)の比較²

場所名	デラウエア	サマーブラック	巨峰
山形園試	19.6	21.1	19.0
山梨果試	20.7	21.3	19.7
長野中信農試	19.7	20.6	20.1
新潟園試	17.9	19.9	18.5
石川農研セ・砂丘地	20.5	22.6	17.3
大阪農技セ	21.7	23.5	18.8
広島農技セ・果研	21.2	21.7	19.4

² 1995年と1996年の平均値

第8表 ‘サマーブラック’ と対照品種の酸度(g/100ml)の比較²

場所名	デラウエア	サマーブラック	巨峰
山形園試	0.64	0.42	0.47
山梨果試	0.69	0.49	0.57
長野中信農試	0.68	0.51	0.63
新潟園試	0.58	0.43	0.42
石川農研セ・砂丘地	0.50	0.44	0.43
大阪農技セ	0.62	0.39	0.46
広島農技セ・果研	0.63	0.76	0.49

² 1995年と1996年の平均値

3. 栽培上の留意点

若木のうちは樹勢が強く、花穂の着生が不良となりやすいので、剪定を弱めに行い、十分に樹冠を広げることが重要である。果実は散光着色性を有し、成熟期に夜温の高い地域で、除袋後傘掛けする慣行法と有袋のまま収穫する省力法の比較をした結果、両者の着色や果実品質に差はなく、除袋、傘掛けの作業を省くことが可能と考えられた。

なお、収穫時に雨天が続くと小果梗の付け根に三日月状の裂果が発生することがあるので注意が必要である。

自然状態の果房は粗着房で果粒も小さいので、ジベレリン処理が不可欠である。1999年1月14日付けで本品種に対するジベレリン水溶剤の適用拡大が許可された。満開期及び満開10日後にジベレリン50ppmを処理することによって、果粒は7～8gの大きさとなる。房作りの方法の一例として、満開時に花穂の先端1cmを摘んでその上6cmの部位を用い、ジベレリン処理を行い、着粒数を50～60粒に制限すると400g前後の果房となる。摘房は1新梢1房を基本とするが、強い枝には2房着けることができる。脱粒しやすい傾向があるので、やや密着した果房になるように仕上げる。収穫の目安は糖度19°Brix以上、酸度0.6g/100ml以下、糖酸比30以上とする。

防除は‘巨峰’に準じた散布で問題となる病害虫は認められない。べと病の接種試験の結果、欧州系品種に近い罹病性が認められたが、圃場での発生は多くない。

4. 適応地域

北海道を除くブドウ生産地帯での露地栽培が可

能であり、早生の‘デラウエア’と‘巨峰’をつなぐ品種として期待される。特に需要が高まる旧盆前の出荷が可能な山梨県以西の温暖なブドウ地帯での普及が見込まれる。また、同時期に成熟する赤色系品種の‘キングデラ’とのセット販売も消費者の興味を引くと考えられる。

1998年から品種の許諾を行い、現在、全国の10業者で苗木の販売が行われている。また、山梨県では数カ所の普及センターで展示圃を設け、各地域での適応性を検討しており、今後の普及が期待される。

命名の由来

品種名の‘サマーブラック’は「夏の暑い時期に真っ黒に熟すブドウ品種」の意味である。

本品種の英語表記は‘Summer Black’とする。

摘 要

山梨県果樹試験場では、農林水産省の指定試験地として1951年からブドウの育種事業を開始し、わが国の気象条件下でも容易に栽培が可能で高品質の生食醸造兼用品種の育成を図ることを目標に事業を進めてきた。その成果として、‘サマーブラック’を登録するに至ったので、その育成経過及び特性を報告する。

本品種は1968年に‘巨峰’と‘トムソン・シードレス’を交雑した実生11個体から選抜したものである。1969年に播種、育苗後、1970年に個体番号8255として圃場に定植した。1990年に一次選抜

を行い、1992年より '山梨35号' の系統名で第8回系統適応性検定試験に供試した。その結果、早生品種として着色や果実品質が優れることから、1997年8月19日に 'サマーブラック' と命名、'ぶどう農林16号' として登録、公表された。1997年3月31日に種苗法に基づく品種登録の申請を行い、1999年3月18日に出願公表された。

樹勢は強く、新梢の伸びは旺盛である。樹冠の広がり大きく、樹勢は強い。葉の大きさは大きい。花穂は複穂円筒形で、1新梢あたり2花穂を着ける。花は完全花(両性花)であり、三倍体品種である。満開期は山梨市で6月中旬で、花振るいは多い。防除は '巨峰' に準じた散布で問題となる病害虫は認められない。

自然状態の果房は、有岐円筒形であり、着粒密度は中である。果粒の形は扁円~円で、大きさは3g程度である。満開時及び満開10日後のジベレリン50ppmの処理によって、7~8gに果粒が肥大し、400g前後の果房となる。果粒は紫黒色で着色は良好であり、果粉は多い。果皮は厚く、はく皮性はやや困難である。肉質は塊状と崩壊性の中間であり、フォクシー香を有する。果汁の糖度は20~21°Brixと高く、酸含量は0.5~0.6g/100mlで食味は濃厚である。裂果は少ない。果梗と果粒の分離性は容易であり、果実の日持ちは短い。収穫の目安は糖度19°Brix以上、酸度0.6g/100ml以下、糖酸比30以上とする。

全国のブドウ生産地帯での栽培が可能であるが、特に需要が高まる旧盆前の出荷が可能な山梨県以西の温暖なブドウ地帯での普及が見込まれる。

引用文献

- 1) 山根弘康、栗原昭夫、永田賢嗣、岸光夫、山田昌彦、松本亮司、角利昭、平林利郎、金戸橋夫(1988). ブドウ新品種 '安芸シードレス'. 果樹試報E. 7:1-8.
- 2) Ramming, D. W., R. Tarailo. 1995. 'Fantasy Seedless': A New Black seedless grape. HortScience 30:152-153.
- 3) Reynolds, A. G., L. G. Denby, M. J. Bouthillier. 1989. 'Simone' Grape. HortScience 24:866-867.
- 4) 山根弘康、栗原昭夫、永田賢嗣、山田昌彦、岸光夫、吉永勝一、松本亮司、金戸橋夫、小澤俊治、角利昭、平林利郎、飯塚宗夫、小崎格、角谷真奈美、佐藤明彦(1993). ブドウ新品種 'ハニーシードレス'. 果樹試報. 25:45-56.
- 5) 農林水産省(1985). 種苗法による品種登録について. 昭和60年7月6日. 15

' SUMMER BLACK ' : A NEW SEEDLESS GRAPE

Toshiharu OZAWA, Tsuyoshi AMEMIYA, Toshihiko SATO, Jiro FURUYA,
Kiyoshi FURUYA, Masanori MIYAKE, Noriyoshi SAITO,
Toshiro HIRABAYASHI¹, Tohru MOCHIDUKI², Mari KONDO,
Tsuyoshi SHOJI, Takao ANDO³, Hideo BESSHO, Koichi KOIKE

Yamanashi Fruit Tree Experiment Station
1204 Ezohara, Yamanashi, 405-0043, Japan

Current address:

¹ National Institute of Fruit Tree Science, Okitsu, Shimizu, Japan

² Yamanashi Agricultural Center, Futaba, Yamanashi, Japan

³ Yamanashi Agricultural Department, Marunouchi, Kofu, Japan

Summary

'Summer Black' is a seedless grape cultivar released by Yamanashi Fruit Tree Experiment Station. It is a early season cultivar with good skin colour development and excellent fruit quality. It is expected to contribute to Japanese grape industry.

Origin

'Summer Black' originated from a cross of 'Kyoho' × 'Thompson Seedless' made in 1969. The original plant was selected from a population of 11 seedlings and tested as 'Yamanashi 35'. 'Summer Black' was registered as 'Grape Norin No.17' with the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries on August 19, 1997. It was applied for the Seeds and Seedlings Law in 1997. The name of 'Summer Black' originated from harvest time 'Summer' and skin colour "Black".

Description

'Summer Black' is triploid. Vigor of vines is vigorous. Leaves are large in size. Clusters are cylindrical, averaging 400g when Gibberellic acid (GA₃) is used. Bunch density is medium. Berries are 7-8g with GA₃ treatments, slightly flat to roundish, purple black. 'Summer Black' matures in the beginning of August, 7 to 12 days earlier than 'Kyoho' in Yamanashi. Soluble solids concentrations range 20 to 21%, with a titratable acidity of 0.5 to 0.6 g per 100ml fruit juice. The flavor is foxy and the detachment from pedicel is easy.

Culture

GA₃ treatment is necessary to improve bunch size and berry size. Applications of GA₃ at 50 ppm are used at both the full bloom and 10 days after full bloom. Berry thinning is sometimes important to reduce the risk of berry cracking at harvest. Standards of optimum °Brix levels are more than 19 °Brix and the optimum Brix/acid ratio is more than 30. No significant susceptibilities to insect or disease pests have been noted.

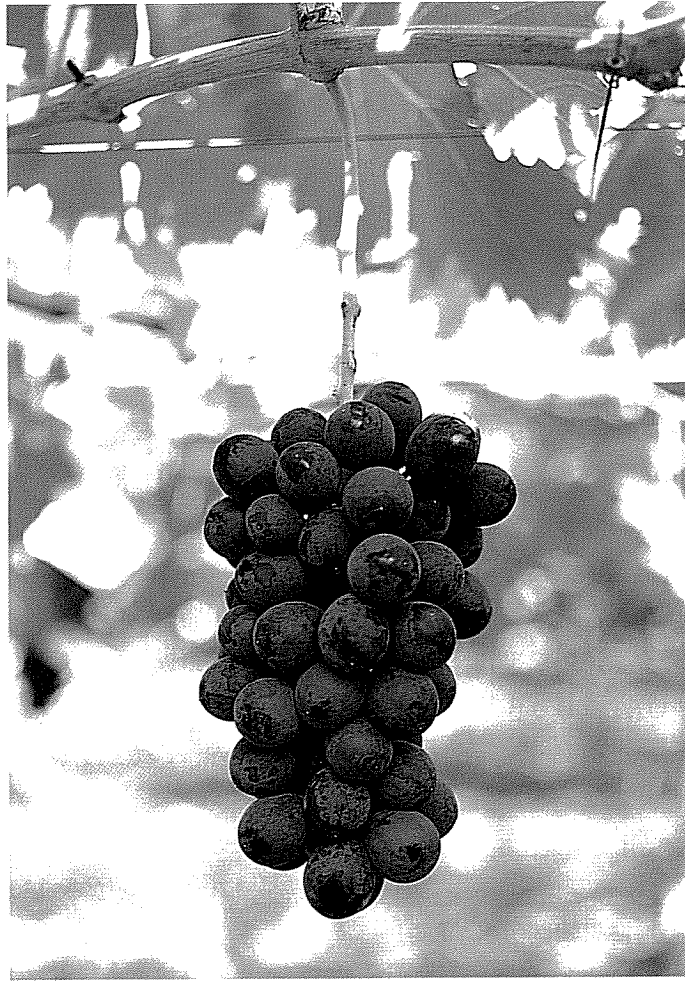


写真1 'サマーブラック' の果実

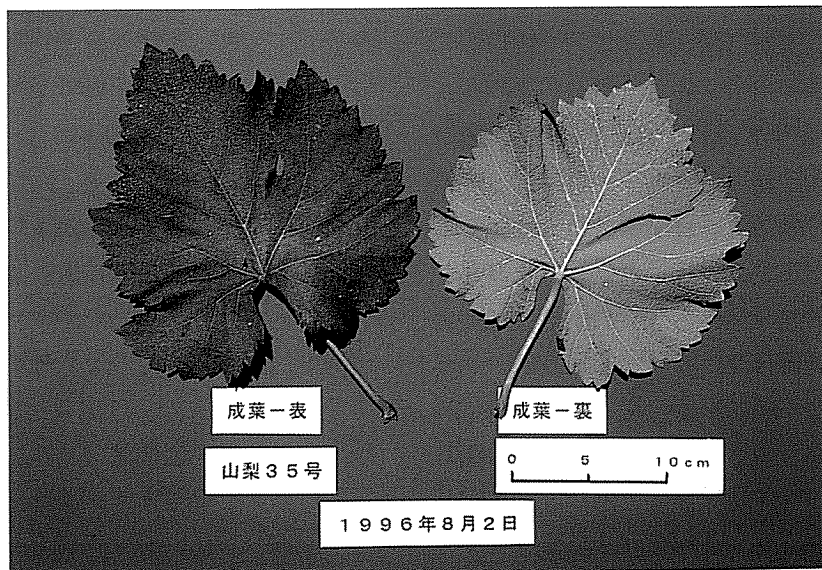


写真2 'サマーブラック' の葉